

溶接技術センター

中国で社員教育 支援

現地企業でUTなど6回研修



UT実機による研修には一段と熱が入った

日本溶接技術センター 師、久我満日本溶接構造
 では、昨年9月上旬を皮
 切りに年明け2月中旬ま
 での半年間、計6回にわ
 たり、中国大手の建設機
 械メーカーである三一集
 団会社の社員を対象に溶
 接および検査関連の現地
 教育訓練のための研修会
 を開催した。

昨年5月に三一集団の
 日本窓口である三一日本
 から同センターに対し、
 溶接および検査関連に関
 する協力要請があり、こ
 れに対し、同センターで
 は奥村誠専務理事、齋藤
 亨参与、永徳俊裕日本溶
 接構造専門学校非常勤講
 師、久我満日本溶接構造
 専門学校非常勤講師の一
 行4人が昨年6月15日に
 中国・湖南省長沙市の同
 社本社へ赴き、向文波総
 裁ほか同社幹部らと会見
 し、教育訓練内容と技術
 者育成の基本的考え方に
 ついて協議を行った。

その後、7月上旬には
 同社の人事教育担当役員
 ほか関係メンバー6人が
 来日、双方合意の上で同
 センターが溶接および検
 査技術の教育訓練指導を
 実施することに包する包
 括的協定を結んだ。

これにより、昨年9月
 から本年2月まで毎月1
 回の、1週間のペースで、
 同センターから奥村専務
 理事、齋藤参与、久我非
 常勤講師、下村春夫日本
 溶接センター職員、崔農
 日本溶接構造専門学校非
 常勤講師が中国へ講師と
 して訪中し、必要な設備
 等も事前に整えた上でス
 テップバイステップで教
 育を行った。

溶接基礎研修では三一
 集団会社の主要15工場か
 ら選抜された26人の受講
 生に三一学院の溶接指導
 教官4人を加えた30人に
 対し、技能到達レベルと
 して中級(中級技工士)を
 目標に学科と実習の組み
 合わせによる研修を実施
 した。

一方、UT検査員の研
 修ではデジタル超音波探
 傷器による訓練を展開し
 た。各回の研修会終了時
 には実技試験による修了試
 験も実施。最終的な修了
 試験では学科、実技とも
 にJISの炭酸ガスシー
 ルドアーク半自動溶接の
 中級資格に準じた課題を
 準備し、実施した結果、
 受講者全員優秀な成績で
 合格を果たすことができ
 た。

新会長に服部重彦氏(島津)

JAIMA 通常総会開く

社団法人日本分析機器
 工業会(JAIMA)は

総会後の記者会見で、
 服部会長は東日本大震災

発生後、国家の新経済成
 長戦略の重点目標である

グリーン・イノベーション
 の分野へ積極的に取り組

るアジアでのリーダーシ
 ャップを発揮するためのグ

ローバル化推進ほか、メ
 ディカル・イノベーション

の増加を重要課題に位置
 付け、特に講師陣の充実

の展開を図る。
 専門学校の学生数

(島津製作所)

初め、5月19日、霞山会館で開
 催した通常総会で、堀場
 会長(堀場製作所代表
 グリーン・イノベーシ

【副会長】堀場厚、栗
 原権右衛門(日本電子・
 代表取締役社長)、梶本

敏夫(日立ハイテクノロ
 ジーズ・執行役常務科学

【会長】服部重彦
 治(アジレント・テクノ
 ロジー・取締役ライファ

【副会長】堀場厚、栗
 原権右衛門(日本電子・
 代表取締役社長)、梶本

定例理事会開催

最重要課題は
 新法人移行

日本溶接技術センター
 (入江宏定会長)は5月

19日、川崎市の同センタ
 ーで第70回定例理事会・

「来年4月1日付の登記
 を前提に努力する」と所

「来年4月1日付の登記
 を前提に努力する」と所
 信を述べた。

第5回は立野クラシック
 ゴルフ倶楽部で開催



第5回中野杯 14人が参加 優勝は笠岡氏

発揮して、関
 東日本
 か、産業中
 っていた
 雰囲気な
 大会が開
 気象庁は
 天気予報
 参加者の
 けたがこ
 まらず
 で、「和
 がらも、
 た」とい
 個人戦
 氏(シー
 き、準優
 ック)。
 恵氏(九
 連覇を果
 また、
 浩一氏(田
 田原勝彦
 の両氏が



「来年4月1日付の登記
 を前提に努力する」と所
 信を述べた。

「来年4月1日付の登記
 を前提に努力する」と所
 信を述べた。